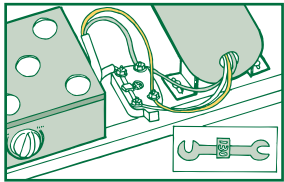


電気コタツの点検とお手入れ

電気コタツは特に手入れの必要はありませんが、たまにはヒーター部分をはずして、電気掃除機で網状の安全カバーのなかのホコリを取るようしてください。

- ヒーターが暖かにならない場合
コードの断線、プラグ、差し込みの接触不良、温度ヒューズ切れ等が考えられます。
 - プラグや差し込みをあけて線がゆるんでいないか確認してください。
 - コードが断線しているようなら、コタツ専用のコードが販売されているので、それに付け替えてください。
 - 他に異常がなければヒューズ切れが考えられます。
- (日)ヒーター部を取りはずし、網状の安全カバーをはずしてください。
- (月)温度調節器のそばにだいたいヒューズがありますので、ナットをはずして同じ規格のもの(120℃用~180℃用まであります)と交換してください。

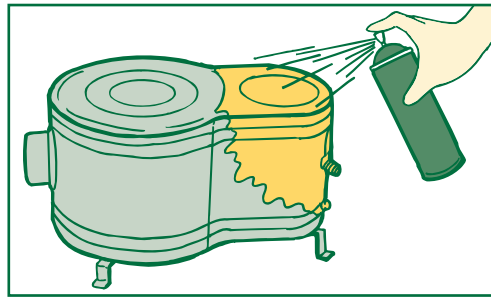


※ヒューズを取り替えてもすぐにヒューズが切れる場合はサーモスタットが故障していますので、係員におたずねください。

ここがポイント!

ダルマストーブにペンキを塗る

ダルマストーブのようにマキを燃やすタイプのストーブは鉄そのままの色では味けないので、色を塗ってみてはいかがでしょうか。熱に強い耐熱スプレーペンキがよいでしょう。



(社)日本DIY協会認定DIYアドバイザーが、ご質問にお答えいたします。お気軽にお声をおかけ下さい。

サービスのご案内



配達・ベカン便 切り売り商品 修理

●クレジットもご利用になれます。



返品・交換 表札・額の受注 スペアキーづくり



ホームセンターセキチュー

制作発行 / 株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

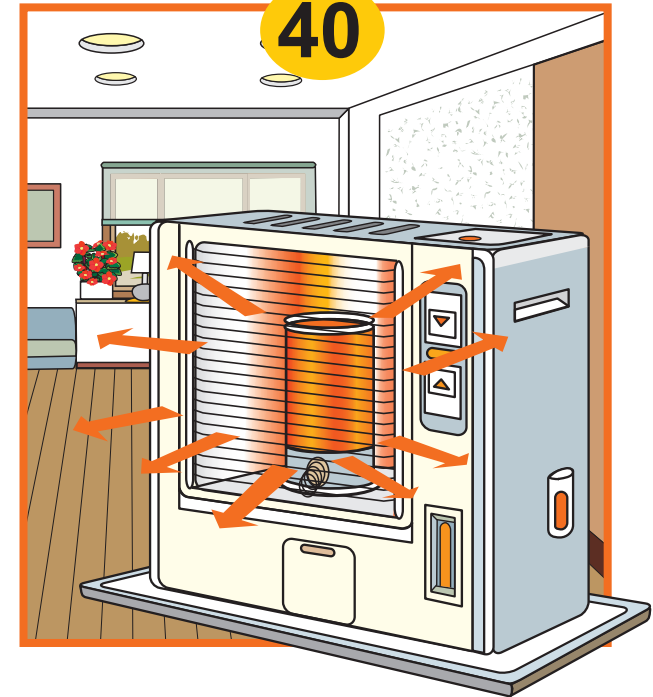
TEL.027-345-1111(大代表)

暖房器具を正しく使う

自分でやってみよう!

セキチュー HOW TO D.I.Y

40



寒い冬に欠かせないストーブやコタツですが、日頃のお手入れは欠かせないようにしたいものです。特に使い始めと季節が終わってからの保管には念を入れてもらいたいものです。そうしないと、いざ使いたいというときになっても使えないで大あわてということにもなりかねません。ここでは点検をメインにお手入れ方法を紹介します。

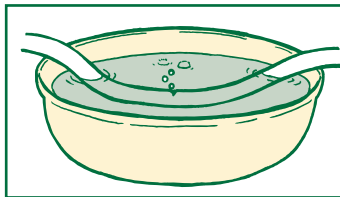
ガスの点検とお手入れ

ゴム管の点検

ゴム管が古くなると、小さなヒビ割れができたり、差しこみ部分がゆるくなってきて、そこからガスが漏れることがありますので、使い始める前に必ず点検してください。

●点検方法

洗剤を少し薄めた液の中にガス管を入れ、ガスを流してみます。ブクブクと泡が出るところがガス漏れしていますので、ガス管を交換しましょう。



●ゴム管の種類

- 口径が9.5mmと13mmの2種類ですが、ガスストーブ用はほとんど9.5mmです。
- 都市ガス用は青、プロパンガス用はオレンジ色をしています。

石油ストーブの点検とお手入れ

反射板をきれいに。

石油ストーブに限らずガスストーブ、電気ストーブ等反射型のストーブは反射板が汚れていると熱効率が下がるので、いつもピカピカにしておきましょう。乾いた布でいつもから拭きしてください。汚れたら灯油をティッシュペーパーにつけて磨くときれいになります。またサビが出てきた場合はクロームクリーナー等の金属磨きで磨いてください。

不良灯油は使わないようにしましょう。

シーズン初めに去年の灯油を使う場合は、次のようなチェックをしてください。

- 透明の容器に灯油を入れてその色をみてください。茶色に変色していたり、沈殿物があったりしたら変質していますので、使わないようにしてください。そのまま使うと悪臭がしたり、火がつきにくかったり、芯を傷めてしまい、あげくにはストーブそのものが使えなくなってしまいます。
- シーズン後は、ブリキの缶に入れ、日光の当たらない暗い場所で、風通しのいい屋内で保管するようにしてください。

耐震自動消火装置の作動を確認しましょう。

使い始める前に必ず点検しておいてください。装置は電気掃除機でホコリを吸い取り、乾いた布で消火装置を傷めないように拭いてください。そしてストーブを揺すって作動するかどうか確認してください。

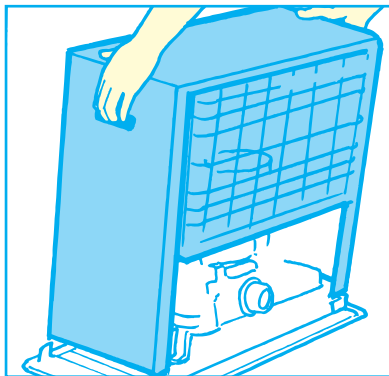
芯のお手入れ

ときどき空だきして芯に付着したカーボンやタールを燃やしてください。自然に火が消えてしまうまで冷やしてから、芯の形を崩さないように指で燃えがらをつまんでくずし、布切れで掃除してください。（この方法はガラス芯の場合です。綿芯の場合は空だきすると燃えてしまいますので、油切れがないようにしてください。）使う前に芯の先端が揃っているか確認し、揃っていない場合ははさみやカッターで切り揃えてください。

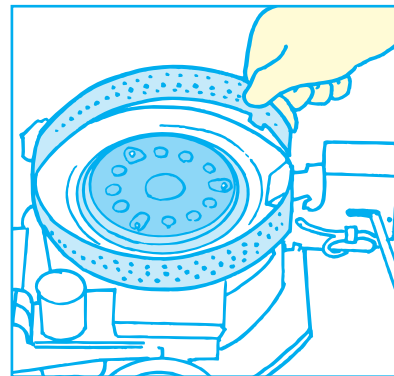
石油ストーブの芯の交換

ガラス芯は4～5年で交換した方が熱効率が上がります。先端が短くなってきたり、凹凸が出たり、先端が固くなったりしていたら交換が必要です。替え芯はストーブのメーカーと型番をメモして係員にご相談してください。交換方法はメーカーによって多少違いますので、取扱説明書にそって交換するようにしましょう。

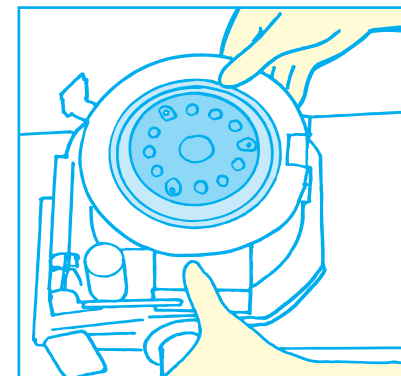
<一般的な交換方法>



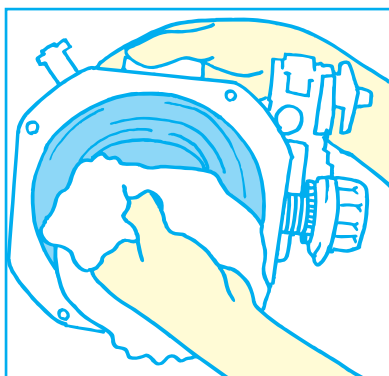
最初に燃焼筒を取り出した後、前板をはずしてください。そして給油タンクを出してから、側面のネジをはずしてキャビネットをはずします。



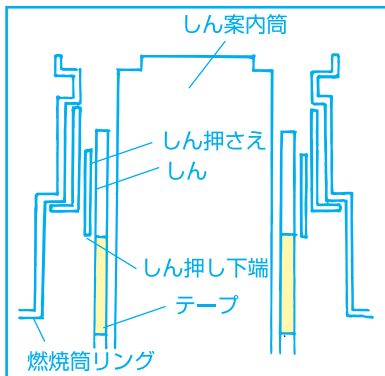
案内筒リングはバネ部分を上に引くとはずれます。点火装置もネジをはずして、静かに持ち上げて取りはずします。



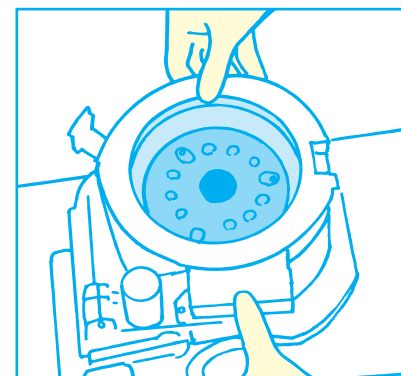
芯案内筒を固定しているネジをはずし、芯案内筒を取りはずし、中にある芯をはずしてください。



芯が一番下に下がった状態にして、新しい芯を芯案内筒の内側のツメに差すようにして、内側に均一になじませるようにして取り付けます。



このとき芯押さえの下端を芯のテープの線にあわせて取りつけるのがコツです。芯をあげると芯の出る寸法がちょうど7mmになります。



芯の出る寸法が狂わないように元通りにセットしてください。案内筒を固定するときには芯部分のすき間が均一になるようにしてください。